

2018年11月実施  
第10回  
農業簿記検定<sup>®</sup>  
2級問題

注意事項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までに済ませてください

- 1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。
- 2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてカバン等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。  
・筆記具（BまたはHBの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー  
・電卓（基準に適合したものに限る。又は算盤）・時計（通信機能を有するものを除く）
- 3 スマートフォン等通信機器を使用することは認めません（時計の代わり又は電卓として使用も不可）。電源を切り、カバン等にしまってください。
- 4 試験監督員の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正受験とみなすことがあります。
- 5 上掲4の場合を含み、不正受験と認められた場合には、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、**2時間（120分）**です。試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 7 この問題冊子には、**問題25問まで掲載**しており、**1頁から24頁まで印刷**しています。  
試験監督員の指示に従い、頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。
- 8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。
- 9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。
- 10 退室可能時間は、試験開始後30分後から試験終了10分前です。  
※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。
- 11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。
- 12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退室可能を指示するまでは、席を立たないでください。
- 13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

監修 一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会

※“農業簿記検定<sup>®</sup>”は、一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会の登録商標です

**問題 1** 以下の文章のうち、誤っている文章が一つある。その文章の選択肢を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. 農業簿記とは農企業（農業）に適用される簿記をいい、その特徴は生産活動の記録を行うことである。
2. 原価計算の目的には、公開財務諸表作成目的、原価管理目的、利益計画目的などがある。
3. 原価計算は、種々の目的を達成するために製品の原価を計算し、農業簿記は、その計算された結果を複式簿記の原理に基づいて帳簿に記入する。
4. 総原価は、製造原価、販売費、一般管理費に分類される。
5. 変動費は、生産規模の増減にかかわらず変化しない原価要素をいう。

**問題 2** 以下の1～5は農業簿記において製造原価、販売費、一般管理費となる具体例を記述したものである。このうち、一つだけ誤っている組み合わせがある。その番号を答えなさい。

**【選択肢】**

	製造原価	販売費	一般管理費
1	収穫機械の燃料代	販売員の営業出張旅費	本社建物の電気代
2	野菜畑の作業員給料	直売所の従業員給料	総務職員の通勤費
3	水田の農薬費	展示商談会の出展費用	役員給料
4	直売所レジのロール紙代	トラクターの燃料代	販売所備品の減価償却費
5	果樹園の作業員給料	販売所の固定資産税	本社備品の減価償却費

**問題 3**

以下の【仕訳】と【勘定】の資料から、空欄（①）～（③）に入る金額として正しいものの組み合わせを示す番号を一つ選びなさい

【仕訳】（単位：円）

(1) 肥料 102,000 円を掛で購入した。なお、引取運賃 3,000 円は月末に支払うことにした。

(借) (肥料費) (①) (貸) (買掛金) 102,000  
(未払金) ( )

(2) 肥料の消費量に消費価格を乗じ、直接材料費が 79,500 円、間接材料費が 18,000 円と計算された。

(借) (仕掛品) ( ) (貸) (肥料費) ( )  
(製造間接費) ( )

【勘定】（単位：円）

肥料費

(1) 買掛金 102,000	(2) 仕掛品 (②)
(1) 未払金 ( )	(2) 製造間接費 ( )

仕掛品

(2) 肥料費 ( )	
-------------	--

製造間接費

(2) 肥料費 (③)	
-------------	--

【選択肢】

	①	②	③
1	105,000	79,500	18,000
2	102,000	79,500	18,000
3	105,000	79,500	79,500
4	102,000	18,000	18,000
5	105,000	18,000	18,000

**問題 4**

以下の【仕訳】と【勘定】の資料から、空欄（①）～（④）に入る金額として正しいものの組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

【仕訳】（単位：円）

7/ 1 賃金手当の前月末未払額は 408,000 円であった。

（借）（未払費用） 408,000 （貸）（賃金手当） 408,000

7/22 賃金手当の当月支給総額は、3,720,000 円であり、預り金 270,000 円を差し引いた金額を普通預金から支払った。

（借）（賃金手当） ( ) （貸）（預り金） 270,000  
 (普通預金) ( ① )

7/31 作業員の実際作業時間の内訳は次のとおりであった。

直接作業時間 3,800 時間 間接作業時間 600 時間 手待時間 200 時間

なお、消費賃率は予定消費賃率を採用し、1 時間当たり 800 円であった。

（借）（仕掛品） ( ) （貸）（賃金手当） 3,680,000  
 (製造間接費) ( ② )

7/31 賃金手当の当月末未払額は 384,000 円であった。また、賃金手当勘定における貸借差額を賃率差異勘定へ振り替えた。

（借）（賃金手当） 384,000 （貸）（未払費用） 384,000  
 (賃率差異) ( ③ ) (賃金手当) ( ③ )

【勘定】（単位：円）

賃金手当

7/22	預り金	270,000	7/ 1	未払費用	( )
"	普通預金	( ① )	7/31	仕掛品	( )
7/31	未払費用	( ④ )	"	製造間接費	( ② )
			"	賃率差異	( ③ )
		( )			( )

【選択肢】

	①	②	③	④
1	3,720,000	160,000	64,000	408,000
2	3,450,000	160,000	16,000	384,000
3	3,450,000	640,000	16,000	384,000
4	3,450,000	640,000	64,000	408,000
5	3,450,000	640,000	16,000	408,000

**問題 5** 以下の資料に基づき、各経費の当月消費額の合計額として正しい選択肢を一つ選びなさい。

(単位：円)

費目						
外注加工費	前月末未払額	132,500	当月支払額	467,500	当月末未払額	110,000
減価償却費	年間見積額	900,000				
水道光熱費	当月測定額	60,000	当月支払額	60,750		
支払地代	前月末前払額	87,500	当月支払額	200,000	当月末前払額	100,000

**【選択肢】**

1. 767,500    2. 768,250    3. 792,500    4. 812,500    5. 837,500

**問題 6**

以下の資料に基づき、実際部門費集計表の作成を行い、さらに当該仕訳を行った場合に空欄( ① ) ~ ( ④ ) に入る金額として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

**〔資料〕**

1. 実際部門費集計表 (単位：円)

	金額	野菜部門	果樹部門	水稻部門
部門個別費				
肥料費	293,000	134,000	43,000	116,000
農薬費	270,000	148,000	28,000	94,000
作業委託費	273,000	179,000	11,000	83,000
部門共通費				
減価償却費	595,000	( ① )	( )	( )
共済掛金	240,000	( )	( )	( ② )
動力光熱費	120,000	( )	( ③ )	( )
部門費合計	1,791,000	( )	( )	( )

2. 部門共通費配賦基準に関する資料

	配賦基準	野菜部門	果樹部門	水稻部門
減価償却費	耕作面積	4,000 m <sup>2</sup>	1,500 m <sup>2</sup>	3,000 m <sup>2</sup>
共済掛金	設備価額	1,260,000 円	720,000 円	1,620,000 円
動力光熱費	機械運転時間	90 時間	30 時間	80 時間

3. 仕訳 (単位：円)

(借) (野菜部門費) ( ) (貸) (製造間接費) ( )  
 (果樹部門費) ( )  
 (水稻部門費) ( ④ )

**〔金額〕**

ア 105,000    イ 280,000    ウ 18,000    エ 253,000  
 オ 48,000    カ 84,000    キ 108,000    ク 659,000

**【選択肢】**

	①	②	③	④
1	イ	カ	ウ	ク
2	ア	カ	オ	エ
3	イ	キ	ウ	エ
4	イ	キ	オ	エ
5	イ	キ	ウ	ク

**問題 7**

以下の資料に基づき、製造原価報告書と損益計算書の空欄 ( ① ) ~ ( ⑤ ) に入る金額として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

(単位：円)

肥料費

前期繰越	150,000	仕掛品 ( )
買掛金	948,200	製造間接費 ( )
		次期繰越 183,000
1,098,200		1,098,200

種苗費

買掛金	1,100,000	仕掛品	1,100,000
-----	-----------	-----	-----------

貸金手当

預り金	56,000	未払費用	28,000
普通預金	600,000	仕掛品 ( )	
未払費用	34,200	製造間接費 ( )	
690,200		690,200	

仕掛品

前期繰越	468,400	製品	3,033,800
種苗費 ( )		次期繰越	596,000
肥料費 ( )			
貸金手当 ( )			
製造間接費	1,100,000	3,629,800	
3,629,800		3,629,800	

製造間接費

肥料費	264,000	仕掛品 ( )	
貸金手当 ( )		製造間接費差異 ( )	
外注加工費	76,000		
減価償却費	452,000		
( )		( )	

製品

前期繰越	673,500	売上原価	2,816,000
仕掛品	3,033,800	次期繰越	891,300
3,707,300		3,707,300	

売上原価

製品	2,816,000
製造間接費差異	44,000

製造原価報告書

(単位：円)

I 直接材料費	(	①	)
II 直接労務費	(		)
III 製造間接費			
実際発生額	(		)
製造間接費差異	(		)
当期総製造費用	(	②	)
当期首仕掛品棚卸高	(		)
合計	(		)
期末仕掛品棚卸高	(		)
当期製品製造原価	(	③	)

損益計算書

(単位：円)

I 売上高			4,500,000
II 売上原価			
1. 期首製品棚卸高	(		)
2. 当期製品製造原価	(		)
合計	(		)
3. 期末製品棚卸高	(		)
差引	(		)
4. 原価差異	(	④	)
売上総利益	(		)
III 販売費及び一般管理費			1,350,000
営業利益	(	⑤	)

【選択肢】

	①	②	③	④	⑤
1	1,751,200	1,100,000	3,033,800	2,816,000	378,000
2	1,751,200	1,144,000	3,161,400	2,860,000	246,000
3	1,751,200	1,100,000	3,033,800	44,000	290,000
4	2,015,200	1,144,000	3,161,400	2,816,000	334,000
5	1,751,200	1,144,000	3,033,800	44,000	378,000



**問題 8**

当社は畜産農業を営んでおり、標準原価計算を採用している。1頭当たりの標準原価、直接材料費（素畜費）差異の価格差異と数量差異を算定し、その正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。なお、原価差異の算定にあたり、不利差異の場合には「不利」、有利差異の場合には「有利」と記載している。

## 1. 標準原価カード（1頭当たり）

	単 価	消 費 量	原 価 標 準
素 畜 費	18,000 円／頭	1 頭	( ) 円
製造間接費	900 円／時間	0.1 時間／日×180 日	( ) 円
			<u>( ) 円</u>

## 2. 当期生産データ（素畜は始点で投入する）

期首仕掛品	400 頭
当期投入	<u>900 頭</u>
合計	1,300 頭
期末仕掛品	<u>500 頭</u>
完 成 品	<u>800 頭</u>

3. 1頭の畜産物の完成のためには、180日の飼育日数を要する。期首仕掛品としての家畜は、期首の段階で120日の飼育日数が経過している。また、期末仕掛品としての家畜は、当期末の段階で110日の飼育日数が経過している。

## 4. 当期の原価実績

直接材料費（素畜費）：16,290,000 円（実際消費量：900 頭）

## 【選択肢】

	1頭当たりの標準原価	価格差異	数量差異
1	34,200 円／頭	90,000 円（有利）	0 円（－）
2	34,300 円／頭	0 円（－）	90,000 円（不利）
3	34,200 円／頭	0 円（－）	90,000 円（不利）
4	34,200 円／頭	90,000 円（不利）	0 円（－）
5	34,300 円／頭	90,000 円（不利）	0 円（－）

**問題 9**

以下の資料に基づき、(1) 損益分岐点の変動益および販売量、(2) 希望営業利益 2,400,000 円を獲得するための変動益および販売量を計算し、( ① ) ~ ( ④ ) に入る金額として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

損 益 計 算 書

I 変動益	30,000 個	× @	3,000 円	=	90,000,000 円
II 変動費	30,000 個	× @	1,800 円	=	<u>54,000,000 円</u>
貢献利益					36,000,000 円
III 固定費					<u>34,800,000 円</u>
営業利益					<u><u>1,200,000 円</u></u>

(1) 損益分岐点の変動益および販売量

    変動益 ( ① ) 円      販売量 ( ② ) 個

(2) 希望営業利益 2,400,000 円を獲得するための変動益および販売量

    変動益 ( ③ ) 円      販売量 ( ④ ) 個

**【選択肢】**

	①	②	③	④
<b>1</b>	87,000,000	29,000	93,000,000	31,000
<b>2</b>	84,000,000	28,000	93,000,000	31,000
<b>3</b>	87,000,000	29,000	90,000,000	30,000
<b>4</b>	58,000,000	19,333	62,000,000	20,666
<b>5</b>	87,000,000	29,000	93,000,000	30,000

**問題 10**

次の入金伝票、出金伝票、振替伝票から各勘定口座へ転記した場合、①～⑦の各勘定口座の借方残高の合計額と貸方残高の合計額は一致する。その一致額として正しい金額の番号を一つ選びなさい。

入金伝票	No.1001
XX年1月8日	
水稻売上高	300,000

振替伝票	No.3001
XX年1月14日	
肥料費	60,000
買掛金	60,000

出金伝票	No.2001
XX年1月21日	
肥料費	20,000

振替伝票	No.3002
XX年1月31日	
器具備品	200,000
未払金	200,000

現金

1

日	付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
1	1	入金伝票	1000	100,000		借	100,000
	8	入金伝票	1001	300,000		〃	400,000
	21	出金伝票	2001		(各自推定)	〃	( ① )

器具備品

10

日	付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
1	31	振替伝票	3002	(各自推定)		借	( ② )

買掛金

22

日	付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
1	14	振替伝票	3001		(各自推定)	貸	( ③ )

未払金

25

日	付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
1	31	振替伝票	3002		(各自推定)	貸	( ④ )

資本金

30

日	付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
1	1	入金伝票	1000		100,000	貸	( ⑤ )

水稻売上高

41

日	付	摘要	仕丁	借方	貸方	借/貸	残高
1	8	入金伝票	1001		(各自推定)	貸	( ⑥ )

日	付	摘 要	仕丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
1	14	振替伝票	3001	60,000		借	60,000
	21	出金伝票	2001	(各自推定)		〃	( ⑦ )

【選択肢】

1. 480,000      2. 580,000      3. 660,000      4. 840,000      5. 1,220,000

**問題 11**

次の繁殖牛の育成に関する取引の仕訳について、( ① ) ~ ( ③ ) にあてはまる勘定科目として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

1. 当期より繁殖牛の育成を開始した。当期の繁殖牛育成に要した飼料費は250,000円であり、後日支払うこととした。

(借) 飼 料 費      250,000      (貸) 買 掛 金      250,000

2. X1年の決算につき、繁殖牛の育成費用について計算を行ったところ、総額500,000円であった

(借) ( ① )      500,000      (貸) ( ② )      500,000

3. 従来から育成を行っていた繁殖牛が成熟期を迎え、繁殖活動を行った。(育成仮勘定残高：500,000円、当期の育成費用：100,000円)

(借) ( ③ )      600,000      (貸) ( ① )      500,000  
( ② )      100,000

4. X2年の決算につき、生物の減価償却費50,000円を計上した。なお、記帳方法は直接法によること。

(借) 減 価 償 却 費      50,000      (貸) ( ③ )      50,000

【選択肢】

	①	②	③
1	育成仮勘定	育成費振替高	生物
2	育成仮勘定	飼料費	育成費振替高
3	育成費振替高	育成仮勘定	生物
4	育成費振替高	飼料費	生物
5	生物	育成仮勘定	育成費振替高

**問題 12** 次の仕訳のうち、誤っているものが一つある。その仕訳の番号を選びなさい。

**【選択肢】**

1. 肥育牛の管理のためのソフトウェアを 1,000,000 円で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

(借) ソフトウェア 1,000,000                      (貸) 当座預金 1,000,000

2. 決算にあたり、ソフトウェアの償却を行った。なお、耐用年数 5 年で今期の償却額は 100,000 円である。(直接法)

(借) 減価償却費 100,000                      (貸) ソフトウェア 100,000

3. これまで任意組織であった営農組合を法人化した。設立費用 300,000 円を小切手を振り出して支払った。

(借) 創立費 300,000                      (貸) 当座預金 300,000

4. 決算にあたり、創立費の償却 60,000 円を行った。

(借) 創立費償却 60,000                      (貸) 創立費 60,000

5. 農業用機械が故障して修理不能となったため廃棄した。(取得価額 700,000 円、期首の帳簿価額 100,000 円、今期償却額 40,000 円、間接法により償却している、処分可能価額は 0 円である)

(借) 減価償却累計額 600,000                      (貸) 機械装置 700,000  
減価償却費 40,000  
固定資産売却損 60,000

**問題 13**

次の仕訳のうち、誤っているものが二つある。その仕訳の記号の組み合わせを一つ選びなさい。

- ア. トラクターを所有権移転外ファイナンス・リースにより導入した。リース料の総額は3,600,000円である。なおリース料に含まれる利息相当額は不明で、リース資産総額に重要性が乏しいと認められるので、リース料総額から利息相当額の合理的な見積額を控除しない方法を適用する。

(借) リース資産 3,600,000 (貸) 長期借入金 3,600,000

- イ. 決算にあたり、上記ア.のリース資産の減価償却を行う。

(償却方法：間接法、総リース期間72ヶ月、今期のリース期間は6ヶ月である)

(借) 減価償却費 300,000 (貸) 減価償却累計額 300,000

- ウ. コンバインの運搬用の積載車を一ヶ月間リース（オペレーティング・リース）して使用し、リース料300,000円を小切手を振り出して支払った。

(借) リース債務 300,000 (貸) 当座預金 300,000

- エ. コンバインを所有権移転ファイナンス・リースにより取得した。取得価額は10,000,000円である。

(借) リース資産 10,000,000 (貸) リース債務 10,000,000

- オ. 上記エ.のリース料を普通預金から口座振替により支払った。リース料150,000円のうち利息相当額は30,000円である。

(借) リース債務 120,000 (貸) 普通預金 150,000  
支払利息 30,000

**【選択肢】**

1. ア、イ    2. イ、オ    3. ウ、エ    4. ア、ウ    5. エ、オ

**問題 14** 次に掲げる [交付金等の内容] [勘定科目] [財務諸表等の表示] について、正しい組み合わせを【選択肢】の中から一つ選びなさい。

**[交付金等の内容]**

- ① 作物の作付面積に応じて交付される交付金
- ② 固定資産取得のための国や地方公共団体からの補助金
- ③ 過年度の農業の減収分の収益を補填するために交付される交付金
- ④ 配合飼料価格差補填金
- ⑤ 農畜産物の価格補填を目的として、販売数量に基づき交付される交付金

**[勘定科目]**

- A. 国庫補助金収入    B. 飼料費（貸方）    C. 価格補填収入    D. 経営安定補填収入
- E. 作付助成収入

**[財務諸表等の表示]**

- ア. 営業収益    イ. 製造原価から控除    ウ. 営業外収益    エ. 特別利益

**【選択肢】**

- 1. ①Cウ    ②Bエ    ③Eエ    ④Dイ    ⑤Dア
- 2. ①Cウ    ②Dエ    ③Aエ    ④Dイ    ⑤Eア
- 3. ①Eウ    ②Aウ    ③Dア    ④Bア    ⑤Cエ
- 4. ①Dウ    ②Aエ    ③Cエ    ④Bウ    ⑤Eア
- 5. ①Eウ    ②Aエ    ③Dエ    ④Bイ    ⑤Cア

**問題 15**

農業経営基盤強化準備金の積立及び取り崩しにかかる一連の仕訳について、空欄となっている勘定科目の組み合わせとして正しいものを選択肢の中から一つ選びなさい。

(※仕訳 2. 3. には損金経理方式と剰余金処分経理方式とがある)

1. 経営所得安定対策による交付金 1,500,000 円が普通預金口座に入金された。

(借) 普通預金 1,500,000 (貸) 作付助成収入 1,500,000

2. 農業経営基盤強化準備金として 1,500,000 円を繰り入れた。

〈損金経理方式〉

(借) ( ① ) 1,500,000 (貸) ( ② ) 1,500,000

〈剰余金処分経理方式〉

(借) ( ③ ) 1,500,000 (貸) ( ④ ) 1,500,000

3. 積み立ててあった農業経営基盤強化準備金 4,000,000 円のうち、トラクターを購入するため 3,000,000 円を取り崩した。

〈損金経理方式〉

(借) ( ④ ) 3,000,000 (貸) ( ⑤ ) 3,000,000

〈剰余金処分経理方式〉

(借) ( ④ ) 3,000,000 (貸) ( ③ ) 3,000,000

4. トラクターを 3,000,000 円で購入し、代金は普通預金から支払った。

(借) 機械装置 3,000,000 (貸) 普通預金 3,000,000

5. 所有するトラクターにつき、3,000,000 円の圧縮記帳を行う。

(借) ( ⑥ ) 3,000,000 (貸) 機械装置 3,000,000

**[勘定科目]**

- ア. 農業経営基盤強化準備金    イ. 繰越利益剰余金    ウ. 農業経営基盤強化準備金戻入  
エ. 固定資産圧縮損    オ. 農業経営基盤強化準備金繰入

**【選択肢】**

1. ①オ    ②ア    ③イ    ④ア    ⑤イ    ⑥オ  
2. ①オ    ②ア    ③イ    ④ア    ⑤ウ    ⑥エ  
3. ①ウ    ②イ    ③ア    ④イ    ⑤オ    ⑥エ  
4. ①イ    ②ア    ③オ    ④ア    ⑤イ    ⑥エ  
5. ①オ    ②ア    ③イ    ④ウ    ⑤ア    ⑥エ



**問題 16** 次の資料に基づいて、大原農事組合法人の剰余金処分案の空欄(①)にあてはまる金額を計算し、下記の選択肢の中から正しい番号を一つ選びなさい。

X8年2月25日の定時総会において、繰越利益剰余金を財源とした剰余金の配当等が次の通り決定している。なお、当期剰余金は3,580,000円であり、前期繰越利益剰余金は3,580円であった。

**[決定した事項]**

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| 1. 利益準備金の積立額      | 360,000円   |
| 2. 従事分量配当金        | 2,000,000円 |
| 3. 農業経営基盤強化準備金積立額 | 1,200,000円 |

剰余金処分案

大原農事組合法人

自 X8年1月1日  
至 X8年12月31日 (単位：円)

**【当期末処分剰余金】**

当期剰余金	( )	
前期繰越剰余金	<u>( )</u>	
		( )

**【剰余金処分額】**

利益準備金	( )	
任意積立金		
農業経営基盤強化準備金	<u>( )</u>	
	( )	

配当金

従事分量配当金	<u>( )</u>	<u>( )</u>
---------	------------	------------

**【次期繰越剰余金】** ( ① )

**【選択肢】**

1. 20,000    2. 23,580    3. 383,580    4. 1,223,580    5. 2,023,580

**問題 17**

A社は、B社から肥料を購入して農産物を生産し、これをB社に販売している。B社は、A社から購入した農産物を、市場に出荷している。次の【連続取引】をもとに、A社とB社の消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の納付額として正しい金額の組み合わせの番号を一つ選びなさい。なお、納付税額は売上にかかる消費税等から仕入にかかる消費税等を差し引いた残額として計算し、下記の取引以外は考慮する必要はない。また、消費税等の税率は8%とする。

**【連続取引】**

- X0年3月3日 A社はB社から肥料2,160,000円（税込）を掛で購入した。  
 X0年6月2日 A社はB社に生産した農産物11,880,000円（税込）を掛で販売した。  
 X0年6月5日 B社は仕入れた農産物を14,040,000円（税込）で掛で市場に販売した。  
 X0年6月6日 B社は市場から販売手数料982,800円（税込）を差し引かれ13,057,200円が市場から普通預金口座に入金された。  
 X0年6月30日 A社とB社は決算において消費税額の納付税額をそれぞれ算出した。

**【選択肢】**

	A社	B社
1	720,000	247,200
2	880,000	1,200,000
3	720,000	160,000
4	880,000	1,040,000
5	720,000	320,000

**問題 18~25**

米と野菜を生産するZ株式会社のX0年1月1日からX0年12月31日までの事業年度に関する、次の〔資料1〕及び〔資料2〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、原価計算制度は採用していない。

〔資料1〕 決算整理前残高試算表

残 高 試 算 表

X0年12月31日

(単位:円)

100,000	現金	
20,187,852	普通預金	
865,522	売掛金	
1,008,975	製品	
222,767	原材料	
2,233,589	仕掛品	
1,998,600	建物	
6,980,752	機械装置	
693,858	器具備品	
6,000,000	土地	
	買掛金	4,073,626
	未払金	1,569,923
	退職給付引当金	950,000
	農業経営基盤強化準備金	12,600,000
	資本金	7,000,000
	繰越利益剰余金	6,897,183
	水稻売上高	8,985,614
	野菜売上高	17,859,886
	価格補填収入	1,257,600
1,850,628	種苗費	
7,035,356	肥料費	
5,996,741	農薬費	
766,032	諸材料費	
8,950,950	賃金手当	
66,321	福利厚生費	
2,085,996	動力光熱費	
756,000	修繕費	
1,200,000	役員報酬	
2,500,000	給料手当	
500,000	退職金	
840,000	賃借料	
554,218	事務用品費	
	受取利息	325
	作付助成収入	12,200,000
73,394,157		73,394,157

〔資料2〕決算整理事項

(1) 原材料の期末棚卸の状況は、以下の通りである。棚卸資産の決算整理は、総額法による。

品目	数量	単価
肥料X	20袋	5,400円/袋
肥料Y	30袋	2,800円/袋
農薬Z	4本	2,160円/本

なお、期末における未収穫の野菜の評価額は2,786,528円、収穫した米の在庫は1,568,240円であった。

(2) 将来の農地取得に備えるため、当期に交付を受けた農業経営基盤強化準備金の対象となる補助金について、農業経営基盤強化準備金2,000,000円を計上する。

(3) 当期において新たに農地6,000,000円を取得したため（土地勘定に計上済み）、農業経営基盤強化準備金4,200,000円を取り崩す。当該新規取得農地については、圧縮記帳を行い、直接減額方式により同額の圧縮損を計上する。

(4) X0年6月30日に倉庫（取得原価5,000,000円、期首減価償却累計額3,001,400円、定額法により償却率0.05）より火災が発生し、全焼した。なお、当該倉庫に保険契約は付されていない。

(5) 当期末に計上すべき減価償却費は、以下の通りであり、すべて製造に関する費用である。なお、(4)に記載した火災により滅失した倉庫に係る当期に計上すべき減価償却費は以下に含まれていない。

固定資産	当期償却額
機械装置	1,025,235円
器具備品	197,765円

(6) 当期に従事員A氏が退職し、退職金500,000円を支払った（退職金勘定に計上している）。A氏は製造活動に従事しておらず、A氏に対する退職給付引当金として、前期末までに475,000円を設定している。なお、当期の退職給付費用は30,000円である。

(7) 肥料259,200円及び諸材料57,240円を購入し、代金を掛としたが、まだ会計処理を行っていなかった。

(8) 決算において、法人税等の年税額が972,500円と確定した。

製造原価報告書

(単位:円)

I	材 料 費	期首材料棚卸高 ( )	
	種 苗 費 ( )		
	肥 料 費 ( )		
	農 薬 費 ( )		
	諸 材 料 費 ( )		
	計	( )	
	期末材料棚卸高 ( )		( ア )
II	労 務 費		
	賃 金 手 当 ( )		
	福 利 厚 生 費 ( )		( )
III	経 費		
	動 力 光 熱 費 ( )		
	修 繕 費 ( )		
	( ) ( イ )		( )
	当期総製造費用		( )
	期首仕掛品棚卸高		( )
	計		( )
	期末仕掛品棚卸高		( )
	当期製品製造原価		( ウ )

**問題 18** 上掲の製造原価報告書の空欄 ( ア ) ~ ( ウ ) を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

- |                   |               |                |
|-------------------|---------------|----------------|
| 1. (ア) 15,965,197 | (イ) 1,348,000 | (ウ) 28,616,582 |
| 2. (ア) 15,987,324 | (イ) 1,322,930 | (ウ) 28,626,582 |
| 3. (ア) 15,987,324 | (イ) 1,348,000 | (ウ) 28,641,652 |
| 4. (ア) 15,965,197 | (イ) 1,322,930 | (ウ) 28,594,455 |
| 5. (ア) 15,987,324 | (イ) 1,223,000 | (ウ) 28,516,652 |

損 益 計 算 書

Z株式会社

自 X0 年 1 月 1 日 至 X0 年 12 月 31 日

(単位：円)

I	売 上 高		
	1. 水 稻 売 上 高	8,985,614	
	2. 野 菜 売 上 高	17,859,886	
	3. 価 格 補 填 収 入	1,257,600	( )
II	売 上 原 価		
	1. 期首製品棚卸高	( )	
	2. 当期製品製造原価	( )	
	計	( )	
	3. 期末製品棚卸高	( )	( )
	売 上 総 利 益		( 工 )
III	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		
	1. 役 員 報 酬	( )	
	2. 給 料 手 当	( )	
	3. 退 職 金	( 才 )	
	4. 退 職 給 付 費 用	30,000	
	5. 賃 借 料	( )	
	6. 事 務 用 品 費	( )	( )
	営 業 損 失		( )
IV	営 業 外 収 益		
	1. 受 取 利 息	( )	
	2. 作 付 助 成 収 入	( )	( )
	経 常 利 益		( )
V	特 別 利 益		
	1. ( )		( )
VI	特 別 損 失		
	1. 固 定 資 産 圧 縮 損	( )	
	2. ( 力 )	( キ )	
	3. ( ク )	( ケ )	( )
	税 引 前 当 期 純 利 益		( )
	法 人 税 等		( )
	当 期 純 利 益		( コ )

**問題 19** 上掲の損益計算書の空欄（エ）と（オ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. (エ) △538,552 (オ) 500,000
2. (エ) △538,552 (オ) 475,000
3. (エ) △538,552 (オ) 25,000
4. (エ) 20,713 (オ) 25,000
5. (エ) 20,713 (オ) 500,000

**問題 20** 上掲の損益計算書の空欄（キ）と（ケ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. (カ) 農業経営基盤強化準備金繰入額 (キ) 2,000,000 (ク) 災害損失 (ケ) 1,873,600
2. (カ) 農業経営基盤強化準備金繰入額 (キ) 4,200,000 (ク) 災害損失 (ケ) 1,873,600
3. (カ) 農業経営基盤強化準備金戻入額 (キ) 2,000,000 (ク) 災害損失 (ケ) 1,998,600
4. (カ) 農業経営基盤強化準備金繰入額 (キ) 2,000,000 (ク) 固定資産除却損 (ケ) 1,873,600
5. (カ) 農業経営基盤強化準備金戻入額 (キ) 4,200,000 (ク) 固定資産除却損 (ケ) 1,998,600

**問題 21** 上掲の損益計算書の空欄（コ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. 7,201,183
2. 3,198,220
3. 2,225,720
4. 2,100,720
5. △1,974,280

**問題 22** 次掲の貸借対照表の空欄（ サ ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. 200,640
2. 222,767
3. 1,568,240
4. 2,233,589
5. 2,786,528

**問題 23** 次掲の貸借対照表の空欄（ シ ）～（ セ ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. (シ) 5,955,517 (ス) 496,093 (セ) 1,800,000
2. (シ) 6,980,752 (ス) 693,858 (セ) 1,800,000
3. (シ) 5,955,517 (ス) 693,858 (セ) 6,000,000
4. (シ) 6,980,752 (ス) 693,858 (セ) 6,000,000
5. (シ) 5,955,517 (ス) 496,093 (セ) 6,000,000

**問題 24** 次掲の貸借対照表の空欄（ タ ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. (ソ) 法人税等調整額 (タ) 972,500
2. (ソ) 未払法人税等 (タ) 972,500
3. (ソ) 未払消費税等 (タ) 486,250
4. (ソ) 法人税等調整額 (タ) 486,250
5. (ソ) 未払法人税等 (タ) 486,250

**問題 25** 次掲の貸借対照表の空欄（ チ ）及び（ ツ ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. (チ) 980,000 (ツ) 14,600,000
2. (チ) 505,000 (ツ) 14,600,000
3. (チ) 505,000 (ツ) 10,400,000
4. (チ) 480,000 (ツ) 14,600,000
5. (チ) 480,000 (ツ) 10,400,000



## 貸借対照表

Z株式会社

X0年12月31日

(単位：円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金預金	20,287,852	買掛金	( )
売掛金	865,522	未払金	( )
製品	( )	(ソ)	(タ)
原材料	(サ)	流動負債合計	( )
仕掛品	( )		
流動資産合計	( )	II 固定負債	
		退職給付引当金	(チ)
II 固定資産		農業経営基盤強化準備金	(ツ)
1. 有形固定資産		固定負債合計	( )
機械装置	(シ)	負債合計	( )
器具備品	(ス)	純資産の部	
土地	(セ)	I 株主資本	
有形固定資産合計	( )	資本金	7,000,000
固定資産合計	( )	利益剰余金	
		その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	( )
		利益剰余金合計	( )
		純資産合計	( )
資産合計	( )	負債・純資産合計	( )